



発行所
 カトリック福江教会
 広報委員会
 五島市末広町3-6
 ☎ 0959 (72)3957
 ●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

熊本地震が与えた苦しみと希望

助任司祭 小島 明

熊本地震が発生して、今月十四日
 でちょうど半年になります。月日が
 経つのは本当に早いものですが、こ
 の地震が残した大きな爪痕は残って
 いる所が多いです。私は、八月十六
 日から十八日にかけて、長崎教区



出典：RBBtoday

高校生・青年三名と神学生二名、私
 を含めた司祭団五名で熊本地震の被
 災地の現在を知るために熊本県に参
 りました。最初はボランティアの計
 画で行くことにしていたのですが、
 現地のボランティアの受け入れや参
 加する団体の多さもあり、活動自体
 ができなかったため、被災地視察の
 形でいろんな思いを心に収めてきま
 した。今回はその中の一部を分かち
 合いたいと思います。

二日目と三日目の午前にかけて視
 察を行いました。二日目は、まず、
 「現場の声」ということで、菊池市
 に拠点を置いてあるカリタスジャパ
 ンサポートセンターを訪れました。
 その中でお世話をしている一人のシ
 スターに出会い、たくさんのお話を
 聞くことができました。そこでは、

被災者と被災者でもあるサ
 ポーターの心の叫びが出てい
 たように感じました。そのシ
 スターが言うには「菊池のサ
 ポートセンターではのべ三百
 人以上の方が関わって下さっ
 ている。しかし、今は（わた
 したちが訪問した時）、ボラ
 ンティア活動は縮小している。活動
 の多くは週末に行われていて、多く
 の個人や団体の方が申込されている
 が、定員が過ぎて受け入れられない
 という状況です」と語りました。心
 に残ったのは、「どうか助けてほし
 いという被災者の願いと全国から助
 けの手を必死にのぼそうとしている
 人たちの思いがうまくシンクロして
 いないことがとても心苦しい」と本
 音を話してくれたことにありまし
 た。帰り際に、とても苦しい状況に
 あるにも関わらず「気をつけて見ら
 れてください」と声をかけたシス
 ターの労いの言葉は一つの力を与え
 てくださったと思います。そこから、
 たくさんの被災地を回っていきまし
 た。南阿蘇村はニュースでも記憶に
 新しい、阿蘇大橋が架かってあつた
 所です。大学生が用事を終えて、車
 で帰宅するときにその阿蘇大橋を
 通って行く途中であの地震に遭って
 しまいました。不幸にも地震後すぐ
 は救助されず、一ヶ月ほど経って見

つけられたのでした。そして、被害
 がとても深刻だった益城町にも足を
 運びました。私はここに来て、物事
 の甚大さを思い知らされました。道
 路はポロポロで、大体の家は「危険」
 「居住不可」という紙が貼りつけら
 れ、今にも崩れそうな家を見ると、
 ただ立ちつくすしかできませんでし
 た。悲しいというレベルではありま
 せん。希望の光を辿るのに長い時間
 が必要だと感じました。手を合わせ
 ることしかできない歯痒さがそうさ
 せたのかもしれない。三日目は熊
 本城周辺を見てみました。その時は
 もちろん中に入ることができません
 でした。門も閉められていました。
 熊本城のすぐそばにある加藤神社か
 ら眺めても綺麗な石垣は崩されたこ
 とが目瞭然でした。

この旅で改めて確信したことがあ
 ります。それは、神様の計らいはわ
 たしたちの思いをはるかに超えてい
 ます。その時、わたしたちは災害に
 対する思いの矛先を神に向けてしま
 いがちです。そうではなく、神様の
 計らいにいかに向き合っていくのか
 がわたしたちの信仰の真価・希望で
 はないか思います。少しずつ新しい
 歩みをしている熊本に心に向けて、
 私たちができることをこれからも
 行っていくことができるようにして
 いきたいものです。

司祭叙階二五周年記念ミサ・祝賀会

八月二三日

(火) 福江教会出身の平戸口教会主任パウロ鍋内正志神父様と山田教会主任アツシジのフランシスコ福島光明神父様の司祭叙階二五周年記念ミサと祝賀会が行われました。



左より鍋内正志神父様、福島光明神父様

鍋内神父様は、「銀祝を二〇一六リオオリンピックの銀メダルに例えて、二五年の間、沢山の方々に助け支えて頂いた。私のほうが銀



に値するものを差し上げなければならぬという気持ちです。感謝の心を忘れずに頑張っていきたいと思えます。そして、福江教会出身です。ということを紹介するたびに誇りとしています。本当にありがとうございます。」などとお話されました。

福島神父様は、「準備してくださいました中村神父様、小島神父様、小教区評議会、シスターと信徒の皆さんに感謝致します。歴代の神父様方、特に岩永薫神父様ですが、私が小さい頃の歴代のカテキスタとして関わって頂いたシスター方、

そしてもちろん福江教会の家族、その中で司祭の召命を育んで頂き支えてくださったことが自分の司祭の原点です。自分が生きた当人しか信者さんにも子供にも教えることができない。それが今の司祭としての支えとなっています。福江教会で自分が小さい頃過ごしたことが土台となって司祭として働かせて頂

《福島、鍋内神父様司祭叙階 25 周年記念経費決算書》

収入合計	450,500 円
支出合計	444,831 円
差引残額	5,669 円

(残額は献金箱へ)

○収入の部

科目	金額	備考
御祝金	386,500	福島、鍋内神父様御祝金
祝賀会参加費	44,000	福島、鍋内神父様祝賀会参加費
寄付金	20,000	福島エノ様、鍋内フィコ様からの寸志
合計	450,500	

○支出の部

科目	金額	備考
御祝金	300,000	福島、鍋内神父様への御祝金
交通費	20,000	岩下神父様への交通費
祝賀会経費	103,867	祝賀会食材代、飲み物代
花束代	12,000	福島、鍋内神父様への花束代等
横断幕代	8,640	祝賀会会場横断幕代
雑費	324	両面テープ代
合計	444,831	



祝賀会は終始和やかに進行し、御祝いに駆けつけた神父様方やシスター、信徒の皆さんと楽しい時を過ごしました。

いっています。ですから、これからどうぞ福江教会が司祭、修道者をどんどん生み出すそういった教会、家族であって欲しいと思います。引き続きお祈りのほうをよろしくお願い致します。」などとお話されました。

ジャズコンサート

九月十五日(木) 午後七時よりク

ラシック・マヌーシュジャズコンサートが福江教会の聖堂内で開かれた。東京で活動されているミュージシャンの方が演奏を披露したマヌーシュジャズとは、別名ジプシージャズともいわれ、フランスで活躍したあるギタリストが作ったジャズスタイルであり、ジプシー音楽とスイングジャズを融合させた音楽との事。日本では、トランペットやサククスなどがジャズのイメージであるが、フランスではギター二人とベース、バイオリンで構成されたマヌーシュジャズが主流だという。



福江教会で初めてと思われるジャズコンサートは平日の夜とあってか、観客の入りは残念ながら少なめであったが、ジャズファンと思われる方が最前席に並び、さわやかであり、エネルギッシュさも感じられる演奏が聖堂内を響き渡った。

中村神父さま霊名の御祝

毎日の生活、特に教会や学校・家庭で神様と人を大切にしていけるように、



九月十八日(日)二番ミサ後に、中村神父様の霊名の御祝式が行われた。

子供代表の濱口海人君より、「九月二十九日の霊名の祝日がもうすぐになりました。少し早いですが、中村神父様、聖ミカエルの霊名の祝日おめでとございます。お祝いの日にあたり、いつも、僕たちのためにごミサや許しの秘跡、そして教会のお話などをして下さりありがとうございます。聖ミカエルは、日本の教会の保護聖人なので、神父様は教会



子供代表の濱口海人君よりお祝いの言葉

活動の中心となつて、教会と僕たちを導き、守り、働いてくださっています。聖ミカエルとともに、僕たちが

— 大天使ミカエルについて —

大天使ミカエルは、ガブリエル、ラファエルと並ぶ三大天使の一人であり、九月二十九日が祝日となっている。ミカエルとは「神に似た者」という意味。

かつて、天使たちが創造主である神に背いて反乱を起こしたとき、多くの天使たちを暗黒の淵に追い落としたりしたという。

この事もあり、多くの教会では大天使ミカエルを、教会を守ってくださる聖人(守護聖人)としています。

続けてお祈りをお願いします。僕たちも互いを思いやることを大事にしながら、これからも典礼奉仕、侍者、聖歌隊やいろいろな活動を神様によるこんでいただけるように頑張っていきたいと思えます。中村神父様、どうぞこれからも神様について、教会について、たくさんのごことを教えてください。そのためには、体も大事にしてください。神父様に神様のお恵みがたくさんありますようにお祈りしています。」と、御祝の言葉とともに、霊的花束と花束が贈呈された。

中村神父様より「こちらに来て一年半になりますが出来ること、出来ないことがあります。一歩一歩皆様のために頑張りたい。」とお礼の言葉を頂いた。

敬老会 2016

九月十八日二番ミサ後、敬老のお祝い会がもたれました。中村神父さま聖ミカエル霊名のお祝いと、一組の金婚のお祝いを兼ねて、五〇名を超える方が集まりました。

中村神父さまは挨拶の中で、幼い頃祖母から信仰上大きな影響を受けた

ことに触れ、「あつとに続く私たちのため、子や孫のため、ミサに通い続ける姿を見せてください。」



子供たちより歌のプレゼント。



出席の皆さんに神父様より記念の和菓子がプレゼントされた。

とお話しされました。

この記事を読んでいらっしゃるあなたは何歳ですか? 二〇四〇年、五島市の人口は一、九万人、後期高齢者の占める割合は三六%と推定されています。

誰でもいづれは老化により病により、弱さを深めていくことは避けられません。どんなきっかけでミサに与れなくなるか誰にもわかりませんが、なるべく先伸ばししたいものです。

来年度の教区シノドスの優先課題に、

●福祉的組織ミゼリコルディア長崎の設立

●小共同体づくりが取り上げられました。

二〇四〇年、福江教会の共同体はどんな人口構成で、どのように助け合って、どのような敬老会をお祝いしていることでしょうか。



金婚式を迎えて



私達夫

婦は昨年十一月に金婚式を迎えることが出来ました。五人の子供にも恵まれ、なんとか幸せに暮らして来れたと思っています。五十年間の暮らしの中ではいろんな事がありました。が、神父様の言葉じゃないですがお互い我慢したり、思いやりたりして過ごしてきた五十年間だったと思います。良い嫁さんにも恵まれ幸せでした：笑

夢としか思っていなかった聖地巡礼に二度も二人で行けた事が、今までの信仰生活の中で最も大きな喜びでした。信仰の薄い私達ですが、あのときの感動を思い起こしながら、これからの信仰生活を続けて行こうと思っています。

俺たちのために金婚のお祝いをして下さった信徒の方々に心から感謝致します。ありがとうございます。

馬津川巖・恵美子

女性部臨時総会

九月二十五日(日)二番ミサ後に、女性部臨時総会が行われた。

総会では会則の変更が話し合われ、女性部会則十二条が変更となった。以前の会則では「この会は、前年度の班長の中から三役を選出し、次年度の役員とする」とあったが、この十二条が現状とはそぐわない事から、新しく「この会は、会員の推薦又は立候補者の中から三役を選出する。ただし、立候補者等がない場合は、新年度の班長の中から選出するものとする」となった。この十二条変更により、班長からではなく広く会長・副会長・会計の三役を選出することが出来るようになった。

女性部の活動はまだまだ認知されておらず、自分は女性部に入っていないと頑なに拒否する人が見受けられますが、満十八歳以上(高校生を除く)の女性で満六十五歳までが正会員、六十六歳から準会員となっていますので、何卒ご理解の程お願い致します。

女性部の活動内容と致しましては、教会行事等の食事の準備や片付け、また売店での仕事を中心となります。女性部の活動は福江教会にとつて無くてはならないものです。今後ともみなさんの参加とご協力をお願い致します。

追伸：先日皆様より賜りました

た神学生養成援助献金は、合計一五万九〇〇〇円集まりました。ご協力有難うございました。

今後の日程

● 牢屋の殉教祭

日時：10月30日(日) 午後1時30分
御ミサ

(御ミサ前の午後1時より久賀小中学校から殉教地までの十字架行列を行います。)

集合：檜の浦港よりチャーター船が出ます。11時00分始発、11時30分最終便です。

※久賀島内徒歩移動希望者は早めの集合をお願いします

● 墓地清掃

日時：11月6日(日) 午後2時
午後3時より墓地御ミサ

● 小教区対抗スポーツ大会

日時：11月13日(日) 午前10時
開会式予定

競技：男子ソフトボール、女子ソフトボール

場所：中央公園グラウンド、市民体育館

※選手を募っています。多数の参加をお願いします(弁当支給あり)。また、応援の方も多数お越しください。なお、競技終了後に信徒会館にて慰労会を予定しています。

(注意) スポーツ大会開催のため、当日の2番ミサの開始が8時からとなります。

編集後記

連日の猛暑に見舞われた夏が終わったかと思うと、次は五〇年に一度の大雨に恐怖を感じる、正に異常気象とはこの事を言うのでしょうか。皆さんいかがお過ごしでしょうか。「こころ」二〇七号を発行いたしました。

充実した記事をと毎回思っておりますが、力不足も同時に感じております。広報委員の皆さんの協力もあり、何とか発行にこぎつけている状況です。

「教会離れ」が年々進むのを実感しながら、広報誌が何か役に立ってないかと考える一方で、教会から離れている人は、そもそも広報誌に目を通すはずもないと諦めの心境も浮かんでは消えているこの頃です。

様々な葛藤もありますが、多くはないけれども読んで下さっている読者の方の為に頑張つて充実した誌面作りをしていこうと思っています。新たに広報委員として広報誌「こころ」の取材、記事作成などお手伝い下さる方を募集中です。一緒に楽しく活動してみませんか? 興味のある方は神父様か広報委員、評議員さんなどにお声かけ下さい!

(N・H)